

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター 直通電話設置のお知らせ】

※直通電話の番号は、083-924-2113（子ども読書支援センター）です。どうぞご利用下さい。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：4月11日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組程度
《3月のおはなし会で使った本》

『くまちゃんねこちゃんたべようね』 山本和子/作 教育画劇 2018.1

『やさいさん』 tupera tupera/さく 学研教育出版 2018.1

『食べ物クイズ なにがはいつているのかな？』 津田直美/画 室田洋子/監修 埼玉福祉会 2010.1

★「春のスペシャルおはなし会」

○日時：令和5年4月23日（日）10：30～11：15 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○内容：人形劇、エプロンシアターなどによるおはなし会

○対象：幼児・小学生（3年生以下のお子様には保護者（各家庭1名まで）の付添要） ○定員：10組程度（先着順）

○申込方法：来館・FAX・Eメールなど ○申込締切：4月16日（日） ○参加費：無料

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

＜絵本-3, 4歳から＞

『こっちとあっち』 谷川俊太郎/文 榎朋巳/絵 クレヨンハウス 2023.2 ¥1600

ぼくはこっちにいる。こっちが好きだから。あっちからともだちが遊びにきた。遊んでいたらけんかになって、ともだちはあっちへ行ってしまった。絵を描いていたら、ともだちが帰ってきた。一緒にあそんでいたら、またけんかになった。今度はぼくがあっちへいき…。こっちのぼくとあっちのきみが行ったり来たりけんかしたり。シンプルな言葉とほのぼのとした雰囲気と心と絵本。

『すしん』 たなかひかる/作 ポプラ社 2023.2 ¥1400

「すしっ」と車輪をつけたマグロの鮫。次の瞬間、「すしーん！」と勢いよく走りだす。タマゴにエビ、他の鮫たちもどんどんやってきた！空からはプロペラをつけたタイやイカゲソウ鮫が「すししししし」と飛んできて、あっ！マグロのネタがタイにさらわれた！しゃりだけになった鮫にアナゴが近づいてきて…。シュールでナンセンスな独特の世界観が愉快なたなかひかるの新作絵本。

＜絵本-5, 6歳から＞

『げんきになったよこりすのリック』 竹下文子/文 とりごえまり/絵 偕成社 2022.12 ¥1400

病気で長い間入院していたよこりすのリック。やっと退院できたものの体は弱っていて、少し歩いただけでも疲れて、フサフサのしっぽも毛が抜けてしょぼしょぼ。でも久しぶりの学校ではみんなが拍手で迎えてくれた。みんなの力をかりてリックは少しずつできることがふえていく。徐々に元気になっていく様子はしっぽをみれば一目瞭然。正しく知ってほしいアフターホスピタルの絵本。

＜絵本-小学校低学年から＞

『ぼくにはひみつがあります』 羽仁進/さく 堀内誠一/え 主婦の友社 2023.2 ¥1600

ぼくには秘密がある。アパートの階段のうしろにすんでいる変な形のちっちゃな動物のこと。もじゃもじゃ頭の幼稚園の先生に、動物が好きかなと思ってこっそりうちあげた。すると先生は「それは、ムササビだろう」って…。幼い頃に経験する秘密をもつワクワク感と初めて出会う動物との交流をいきいきと描く。1973年に出版された名作が増補改訂版として50年ぶりに復刊。

『ゆりかごになりたい、とヤナギは言った』 ベッテ・ウェステラ/文 ヘンリエッテ・ブーレンダンス/絵 塩崎香織/訳 化学同人 2023.2 ¥2200

大きくなったらたんすになりたいナラの木。ブナはおもちゃ。カバノキは赤ちゃんのベッド。トウヒはバイオリン。「ヤナギはどう？なにになりたい？」と聞かれ、そっとつぶやいた。「ゆりかご」。じゃあシダレヤナギは…？木たちの会話に耳を傾けると、穏やかな時間と空間に身を委ねることができる。繊細であたたかみのある木版画で描かれたオランダの絵本。巻末に木の解説あり。

＜絵本-小学校中学年から＞

『カキワリの劇場』 小林賢太郎/絵と文 あかね書房 2023.1 ¥1800

自分が嫌いで、今の自分とは違う自分になりたいと思っている男がたどりついた劇場。そこでは舞台美術の犬道具「カキワリ」だけで作品が上演されていた。第一幕は月、第二幕はワトリ、第三幕はシーラカンス、第四幕は松の木とハリネズミ…。第六幕までみて「ここにいてはいけない」と感じた男は裏口をみつけ飛び出す…。劇作家の小林賢太郎が手がけた美しくも怪しい絵本。

＜読み物-小学校低学年から＞

『おにのしょうがっこう』 山田マチ/作 岡本よしろう/絵 あかね書房 2023.1 ¥1200

鬼の小学校に入学した双子の鬼、ベニーとルリー。悪いことをして地獄に落ちた人間の名前を書いたり、数えたりするために、国語や算数を勉強する。運動の時間には、金棒の正しい使い方を習う。音楽の時間には太鼓の練習。上手になったら雷様になれるかも…。鬼の視点で描かれる小学校生活に思わずほっこりする物語。『毎日小学生新聞』連載をもとに単行本化。画家は山口県出身。

『がっこうかっぱの生まれた日』 山本悦子/作 市居みか/絵 童心社 2023.2 ¥1200

かっぱにはもともと人間ぐらいの大きさの大きがっぱと、アマガエルぐらいの大きさの小がっぱがいる。やぶの中にある小さな池に住んでいる小がっぱのコケマル。ある日、町から疎開してきた女の子と出会い仲良くなる。ところが戦争が激しくなると…。ちよとの約束を果たすため、コケマルは「がっこうがっぱ」になる。ちよとコケマルの友情と平和への願いが綴られた物語。

<読み物—小学校中学年から>

『図書委員は泣かない』 小松原宏子/作 あわい/絵 ほるぷ出版 2023.2 ¥1300

本が大好きな小学4年生のシオリ。あだなはホン子で図書委員。ある日、2年生のユウキが図書室にやってくる。ホン子がユウキに絵本を読んであげることがいつの間にか日課になっていく。ホン子のおかげで字が少しずつ読めるようになっていくが…。ホン子とユウキの本を通した友情の物語。青空小学校いろいろ委員会シリーズ5冊目。巻末には、図書委員ホン子のおすすめリスト付。

<読み物—小学校高学年から>

『雪の日にライオンを見に行く』 志津栄子/作 くまおり純/絵 講談社 2023.1 ¥1400

大阪に住む小学5年生の唯人は、自分に自信がなく、人前では言葉がなかなか出てこない。「そういうやつがおつてもええ。」という先生の言葉に救われて今まで過ごしていたが…。残留邦人の祖父、幼いころにいなくなってしまった父親、転校生のアズ。それぞれの境遇から自分の居場所や故郷について考え、向き合っていく少年の物語。第24回ちゅうでん児童文学賞大賞受賞。

『パフィン島の灯台守』 マイケル・モーパール/作 ベンジー・デイヴィス/絵 佐藤見果夢/やく 評論社 2023.2 ¥1500

アランは5歳の時、嵐で座礁した船からパフィン島の灯台守ベンに助けられた。不遇の少年時代をおくるも、ベンからもらった絵を心の支えに日々を過ごす。成長したアランはベンに会いに行き…。灯台守との絆と時代に翻弄されながらも懸命に生きる少年の物語。作者はイギリスを代表する児童文学作家。2017年、文学とチャリティー活動の功績によりナイト爵位が叙せられた。

<読み物—中学生から>

『ディス・イズ・マイ・トゥルース わたしの真実』 ヤスミン・ラーマン/作 代田亜香子/訳 静山社 2023.1 ¥1900

アマニは義務教育終了学年の物静かな少女。理系教科の成績が振るわないことを獣医師の父に打ち明けられずこいる。唯一の親友は同じムスリムのフーダで、養父母に愛情を注がれる明るい少女。いつも一緒に行動する二人だが、フーダにも知られなかったアマニの家族の悩みが知られてしまい…。家族の在り方を問う物語。著者はブリディッシュ・ムスリムのYA作家。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『からだたんけんれっしゃ』 浜田真理/文 大橋慶子/絵 交通新聞社 2023.1 ¥1400

口に入った食べ物はどうなるのか、体の中を探検する「からだたんけんれっしゃ」。くちのなか駅から出発し、しよくどうトンネルを通りいぶくろ駅…。終点はもちろん、こうもん駅。食べ物が消化され、栄養が吸収される様子についてイラストや平易な言葉で分かりやすく説明する。消化の仕組みについて楽しく学べる絵本。巻末には臓器の名前や働きについての「ろせんず」付。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『科学まちがい図鑑』 左巻健男/監修 西東社 2023.2 ¥1400

写真の中にある間違いを見付け、理由を考えることで科学的な見方を学べる図鑑。掲載される50の写真は、街や自然のテーマごとに分けられ、見つけやすさのレベルも設定されている。写真のページをめくると間違っている箇所について科学的根拠をもとに写真や図で解説する。難しい問題には、ページ下部にヒントもあり、学んだことに関連するコラム「おもしろサイエンス」も掲載。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『地域の発展につくした先人大事典』 柴田好章/監修 あかね書房 2023.1 ¥5000

日本各地で活躍してきた先人について、都道府県別に紹介。山口県では、吉川広嘉、小幡高政、青木周弼等を掲載。地域の抱えていた社会問題や時代背景について分かりやすく解説。偉人たちの経歴、肖像写真や関連する遺跡写真、関連するSDGsのアイコンも掲載有。自分の暮らす地域をもっと好きになったり、地域についてより関心をもつきっかけとなる事典。

<ノンフィクション—中学生から>

『ヤングケアラー 考えよう、だれも取りのこさない社会』 濱島淑恵/監修 文溪堂 2022.12 ¥4500

著者は2016年に日本初の子どもを対象にしたヤングケアラーに関する実態調査を行い、19年に「ふうせんの会」を立ち上げた大学教授。最新の調査結果や取材をもとに、「ヤングケアラー」と呼ばれる子どもたちを取り巻く様々な状況をわかりやすく解説。周囲に理解を促すことと併せて、本人の支援につながる情報を掲載。子どもの権利条約(抄訳)、ケアの用語集あり。

『カメラにうつらなかった真実 3人の写真家が見た日系人収容所』 エリザベス・パートリッジ/文 ローレン・タマキ/絵 松波佐知子/訳 徳間書店 2022.12 ¥3500

第二次世界大戦下、強制収容所に送られた日系アメリカ人たちを写した写真家いた。政府に依頼されたドロシア・ラング、収容された宮武東洋、風景写真家アンセル・アダムスの3人は異なる立場、異なる視点で同じ収容所にカメラを向け、写真を残した。彼らが撮ったもの、撮らなかったものとおして、戦時下の日系人たちが置かれた状況を、写真資料と挿し絵とともに紹介。

<研究書>

『図書館にまいこんだこどもの大質問 司書さんもビックリ!』 こどもの大質問編集部/編 青春出版社 2022.12 ¥1350

町の図書館や学校の図書室に舞い込んだ「こどもの質問」は、大人がはっとさせられるものも多い。本書では「レファレンス協同データベース」など、全国の図書館に寄せられた質問と回答から59の事例を紹介。子どもからの抽象的で難解な質問に対して、辛抱強く問い直し、本人が納得のいく回答を返すまでの過程は秀逸。回答までのプロセスや参考資料の掲載もあり。

『絵本まるごといただきます! スギヤマカナヨのワークショップ』 スギヤマカナヨ/著 こどもの未来社 2023.1 ¥2000

絵本作家スギヤマカナヨ氏が小学校や公共図書館などで行っている絵本を使った5種類のワークショップの実践集。所要時間や対象学年、使う絵本だけでなく「このワークショップを通して伝えてほしいこと」を掲載。ワークシートについては巻末のQRコードからダウンロード可。絵本を絵やお話だけでなく、あらゆる視点から使い、本や図書館を好きになるきっかけを作る1冊。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

